

今後の高齢者人口の見通しについて

- ・ 全国の65歳以上の高齢者数は、2025年（平成37年）には3,657万人となり、高齢化率30.3%と推計されます。また、75歳以上高齢者の占める割合は増加し続け、2025年には2,179万人達すると見込まれます。
- ・ 一方大阪市では、全国平均を若干下回りますが、同じような推移が見込まれます。

	2010年	2015年	2025年
全国			
65歳以上高齢者人口 (割合)	2,944万人 (23.1%)	3,395万人 (26.8%)	3,657万人 (30.3%)
75歳以上高齢者人口 (割合)	1,422万人 (11.2%)	1,646万人 (13.0%)	2,179万人 (18.1%)
大阪市			
65歳以上高齢者人口 (割合)	60万人 (22.7%)	69万人 (25.6%)	70万人 (27.0%)
75歳以上高齢者人口 (割合)	27万人 (10.3%)	33万人 (12.2%)	42万人 (16.3%)

総務省統計局 高齢者の人口推計 (2014)、大阪市計画調整局推計人口年報 (2014)

- ・ 65歳以上高齢者のうち「認知症の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者が増加していきます。

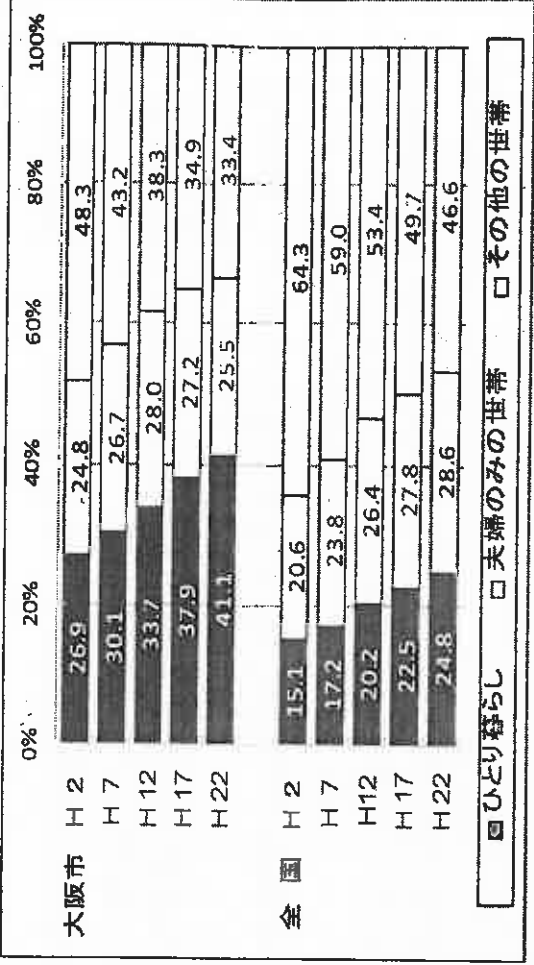
「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者数の推計



	2010年	2015年	2020年	2025年
認知症高齢者数	280万人	345万人	410万人	470万人
65歳以上人口割合	9.5%	10.2%	11.3%	12.8%

厚生労働省老健局 認知症高齢者数について (2013)

- ・ 全国的な世帯の推移からすると、高齢者のひとり暮らし世帯は、今後も増加が予測されます。
- ・ 大阪市では、全国と比較して、ひとり暮らし高齢者の割合が極めて高いという特徴があります。



総務省統計局 平成22年国勢調査、大阪市福祉局 第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 (2014)

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目的に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

地域包括ケアシステムの姿

